

令和3年度 社会科

学年	学習状況の現状分析と課題	指導方法の課題・改善策・補充・発展指導
1学年	<p>【知識・技能】 基本的な知識が身につけている生徒が大半であるが、定期テストではほとんど身につけていない生徒も少なからず見られた。</p> <p>【思考・判断・表現】 資料などからの読み取りをもとに考えたこと、気づいたこと、判断したことなどを文章で表す力が弱い。</p> <p>【主体的学習に取り組む態度】 自ら設定した課題を設定する力が低い。</p>	<p>【知識・技能】 小テストなどを実施し、家庭学習で基本的な知識を身につけさせる。また、「思考・判断・表現」の力に繋がる、資料の読み取りテクニックを身につける。</p> <p>【思考・判断・表現】 1学期は少なかった授業・テストなどで資料などからの読み取りをもとに考えたこと、気づいたこと、判断したことなどを発表したり、文章で表す機会を多くする。</p> <p>【主体的学習に取り組む態度】 授業で学んだことから課題を見つけ、その課題について調べ、考えたことをワークシートなどにまとめる力をつける。</p>
2学年	<p>①「知識・技能」については、反復練習によって、基礎的・基本的な内容が身につけている生徒と家庭学習の習慣が定着していない生徒との間での差異が大きい。また、地図やグラフの読み取りに慣れていない生徒も見受けられる。</p> <p>②「思考・判断・表現」については、文章で表現する設問の解答に関して課題がある。</p> <p>③「主体的に学習に取り組む態度」については、自ら課題を設定する意欲や能力が必ずしも低い。</p>	<p>①定期考査以外にも小テストを実施することによって、基礎的・基本的な内容の定着や家庭学習の習慣を身につけるように促す。また、定期的に配布する問題演習のプリントの内容について確実に定着を図るよう声かけをする。また、授業内で地図やグラフ、絵画資料等の読み取り課題の時間を確保し、反復して演習に取り組む。</p> <p>②タブレット等を活用しながら、まずは自分の言葉で表現してみる努力をするように促す。また、ICT機器を活用することで、板書の時間等を短縮し、授業内で文章で表現する課題に取り組む時間を確保する。</p> <p>③授業に関連する内容について、自ら疑問を設定して、それを調べてまとめるという課題を単元ごとに与え、その内容をノートに書かせる。</p>
3学年	<p>(知識・技能) ・定期テストでは基本的な知識の問題について約8割の正答率であり定着していると考えられる。 ・定期テストの概念的知識を問う問題では正答率が50パーセント前後であり、社会的事象同士を結び付けて概念化することに課題が見られる。</p> <p>(思考・判断・表現) ・定期テストの思考を問う問題では6割以上の正答率があり、社会的事象を根拠をもって考える力がおおむね身につけていると考えられる。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) ・単元ごとのワークシートにおいて、自ら設定した課題に対し工夫をする姿勢が見られる。</p>	<p>(知識・技能) ・基本的な知識・技能については単元ごとの小テストを継続して行い、定着を確認していく。 ・概念的知識については、単元ごとにパフォーマンス課題に取り組ませ、知識を結び付けつつ記述をする中で獲得できるように指導していく。</p> <p>(思考・判断・表現) ・単元ごとのパフォーマンス課題で考えたことを記述させ、繰り返し添削をすることで考えたことを適切に表現する能力を育てていく。</p> <p>(主体的に学習に取り組む態度) ・課題への取り組みを方法としてとらえさせ、学習への取り組みを客観的に振り返る力を育てる。</p>